

一般質問  
榎尾 幸雄  
(好きやねん榎原)

榎原市が所有する土地

**問** 2月13日にミグランスが完成したが、過去にも本市は事業用地として多く土地を購入してきた。数年前から余っている土地を売り出しているが、なかなか売れていない状況だ。現在の市有地数と直近3年の売却状況は。

**答** 現在の普通財産の市有地は180筆、約10万8000m<sup>2</sup>である。庁内委員による公有財産有効活用検討委員会で売却決定されたものについて、公募の売却を進めている。平成27年度は3件を公募にかけたが売却には至らなかった。28年度は6件を公募し、うち2件を売却した。29年度は2件を公募したが売却には至らなかった。従来の売却方法は広報誌やホームページで広報を行い、年に1度公募していた。従来方式の課題は、土地の購買層に売却の情報がなかなか届かず、事務の手間がか

かり年1回しか行えないということがあった。29年度からは民間会社が提供する公有財産売却システムを使用し、インターネットの公有財産売却を従来方式とあわせて導入した。29年度は3件の公募売却を進めたものの落札には至らなかったが、一定の広告効果

等もあったので、引き続きインターネット公募を続けたい。**問** 都市部は土地バブルと言われているが、本市は昔の価格と比べて20分の1や30分の1のところもある中で、どれだけの値段をつけて、どんな売り出しをしているのか。土地を持っていても草刈りなどの維持管理が必要で、安く売っても得るほうが多いのではないか。

**答** 物件の状況と価格面の折り合いになるが、最低入札価格を精査して、場合によっては段階的に引き下げを行うことも十分必要だと認識している。売れ残った物件は次年度に引き下げを行い、暫時5年間引き下げを行いたい。**問** 五井町の約8,000坪の市有地は市にとって大きな財産だが、その活用は。

**答** 一団の土地として最も有効活用が望まれる。売却または貸し付けの両方で検討する必要がある。**問** 売る場合、または貸す場合の価格は。

**答** 平成21年1月に不動産鑑定をした時の坪単価が13万4,200円であった。固定資産税をベースにすると、低く見積もって坪単価が11万1,500円、高く見積もれば20万円を超える計算も場合によっては成り立つ状況である。土地全体をそのまま貸す場合は年間約5,100万円、月坪約566円と試算される。**問** 本当にその金額で売れるのか、貸せるのかと危惧する。第三者に売った場合、その人が次にどこへ売ろうが構わないことになり、売る相手によっておかしいことになりかねないので、売れることは反対だ。県内でも五條市や御所市などに多くの企業が来ており、本市もこの土地にいい企業が来てもらいたい。この金額は異常だ。近くの便利な土地でもっと安価に貸している土地もあると聞いている。いつまでもそういう感覚では企業誘致はできないと思うが、企業誘致についての市長の姿勢は。

**答** 中南和の中でもあれだけの条件がそろった大きな土地というのはまずない。何十年先に、「この土地、うまいこと使ってくれたな」と言われ、地域が活性化するような使い方をしたい。2025年の大阪万博を目指して動き始めている関西の大きな波を感じながら、次の選択肢を考えなければいけない。京奈和自動車道の工事が本格的に今年から始まる。1つとしても、いくつかに分けてもできるし、いろんな利用の仕方があるので焦らず、いろんな選択肢を考え、積極的に取り組むたい。



五井町市有地

不法投棄対策

**問** 市長は施政方針演説で

「榎原市環境基本条例」に基づき策定した環境総合計画は5年が経過し、次の5年に向け、豊かで美しい自然環境と歴史的景観が織りなす魅力あふれるまちを目指し」と言われた。我々議員も美しい榎原市にしたいという思いを持って活動している。上飛驒町に古い家があったが解体された。解体するときに張られたテントがいつまでも撤去されずぼろぼろになっている。持ち主は廃棄物を放るような人ではないが、これは一般廃棄物か産業廃棄物か。**答** 現場を確認したところ、民有地内だが不適切な処置をしている産業廃棄物と認識している。

**問** この廃棄物の上にプラスチック、ペットボトルや空き缶など、いろいろなものが捨てられている。先日はさらにひどくなり、道路の向かいにタイヤなどが山積みになされていた。子どもがよく通る場所であり、一日も早く子どもたちの目に触れないようにしてもらいたい。この状態を許していたらもつとごみが増えていくが、どう考えるか。**答** 産業廃棄物の収集・運搬